

U B E 三菱セメント株式会社 2025 年度第 3 四半期決算説明会 質疑応答

日 時：2026 年 2 月 17 日(火)16 時 00 分～16 時 30 分

登壇者：U B E 三菱セメント株式会社 常務執行役員 CFO 加藤秀樹

【投資家・アナリスト向け説明会】

Q1 2025 年度第 3 四半期（2025 年 10～12 月）業績について

- ・ セメントセグメントにおいて第 2 四半期から第 3 四半期に向けて営業減益△8 億円となった理由を要因別に教えて欲しい

A1

- ・ セメントセグメントは国内事業 28 億円、米国事業△36 億円である。国内事業では、段階的値上げ獲得の効果+20 億円、熱エネルギーコストダウン+6 億円が主因、米国事業では、減販が主因である。

Q2 2025 年度業績見通しについて

- ・ 2025 年度の営業利益見通しについて、国内及び米国での前年同期比較での増減を要因別に教えて欲しい
- ・ 資源事業での業績上方修正の背景、来期の見通しを可能な範囲で教えて欲しい

A2

- ・ 全社では大きな増減は無い一方で、セグメント別ではセメント+9 億円、環境エネルギー△25 億円、資源+24 億円となっている。セメントセグメントでは、国内事業+79 億円、米国事業△70 億円となっており、国内では、値上げを中心に販売価格差+110 億円、熱エネルギーコストダウン+50 億円、輸出価格下落影響△25 億円、減販影響△30 億円、その他工場修繕・物流費コスト増△25 億円が主因、米国では、減販影響△70 億円、前期工場休転コストの期ズレ影響△15 億円、為替換算△10 億円、前年実施した値上げのフル効果発揮+30 億円が主因である。
- ・ 資源事業の業績を支えているのはグループ会社で展開している石灰製品等のマグネシア・カルシア事業である。増益要因は値上げ効果と燃料価格の下落影響が中心である。足元では好調さをキープ出来ており、今後も続くものと見ている。

Q3 国内セメントの値上げについて

- ・ 国内収益の改善策として同業他社では 2027 年 4 月での値上げが検討されているが、MUCC ではどうか

A3

- ・ 足元で労務費や物流費等様々なコストが上がっており、今後カーボンニュートラル投

資が控えている中、いずれ値上げが必要と考えているものの、時期や値上げ幅は未定である。

Q4 国内収益水準の引き上げについて

- ・ 国内事業の収益水準引き上げについて、次年度以降のアクションを教えてください

A4

- ・ 値上げについては、2025 年度は段階的な効果獲得になっており、年度末時点では当初想定 of 100%に到達すると見込むことから、来年度ではフル効果の発揮が見込まれている。コスト面では、昨年 12 月に発表したセメント生産体制の再構築により、2027 年度からの効果発揮を見込んでおり、九州工場苅田第二地区をリサイクル推進拠点とすることによって、熱エネルギー代替率の向上や設備効率の向上等が期待され、単体の収益力向上を目指している。

Q5 セメント生産体制の再構築について

- ・ 第 3 四半期での設備の減損損失計上による固定費削減効果は如何か
- ・ 2027 年 3 月末を目途とした一連の体制再構築による利益の持ち上げ効果は如何程か
- ・ 国内セメント事業の構造改革について、更なる施策があるか、それとも終了か

A5

- ・ 減損損失の計上は会計上の手当てに留まる。今後、不要設備を撤去し、2026 年度に苅田第二地区をリサイクル推進拠点とするための投資を行い、本格的な効果発揮は 2027 年度以降になる。
- ・ 金額影響は申し上げられないが、輸出比率の適正化、熱エネルギー代替率の向上、工場集約による固定費の軽減等について、2027 年度より本格的な効果を発揮する見込みである。
- ・ 一定の目途は立ったという認識である。

Q6 MUCC 米国事業の市場動向、販売数量について

- ・ 米国では通期の販売数量見通しが引下げられた一方、第 4 四半期単独では、前年同期比でセメント販売数量は増加、生コンは下げ幅が縮小しているが、市場の回復が見えているのか
- ・ 米国の状況について、第 3 四半期は販売数量が前年同期比未達だが、第 4 四半期及び来年度の状況について可能な範囲で教えてください

A6

- ・ 米国では、足元の 1～3 月で需要が回復しているとは見ていない。下期トータルで前年比 90%程度の販売量になると見ており、回復局面は 2026 年度に金利が一定下がった後との見立てである。

Q7 米国事業での値上げについて

- ・ 米国での値上げについて教えて欲しい

A7

- ・ 今年度は需要の状況から値上げを打ち出せていないが、今後は需要の状況を見極めて適切なタイミングで実施したい。

以 上